

(社) 日本地すべり学会関東支部



ニューズレター

1. 日本地すべり学会関東支部・記念シンポジウム・意見交換会開催

平成 19 年 6 月 1 日、東京大学工学部武田先端知ホールにおいて、平成 19 年度関東支部総会とシンポジウムが開催されました。

■日本地すべり学会関東支部総会

第 2 回目となる関東支部総会は、丸井英明日本地すべり学会会長に御挨拶を頂戴した後、平成 18 年度事業報告、同決算の承認、平成 19 年度事業計画、同事業予算、同役員名簿等の各議案が承認されました。なお、本年度新たに関東支部副支部長として独立行政法人防災科学技術研究所防災システム研究センターの井口降氏が選任されました。



写真 1 祝辞を述べる丸井会長



写真 2 開会の挨拶をする鶴飼支部長

■平成 19 年度関東支部シンポジウム

総会に引き続き、平成 19 年度関東支部シンポジウムが開催されました。「都市域のランドスライド」をテーマに、東京大学東畑先生、東京電機大学安田先生により、下記の御講演がありました。

「市民レベルの斜面崩壊警報システム」

東畑郁生 東京大学大学院工学部社会基盤学専攻教授

「都市域における既設造成盛土宅地の地震時安定性」

安田進 東京電機大学理工学部建設環境工学科教授

- (1) 東畑郁生先生の講演は、安全・安心への国民の要求が高まる一方、それに応える行政の財政力は低下しており、防災の仕組みの中にも効率、コスト・パフォーマンスの考え方を取り入れた自主防災の考え方が重要となると指摘されました。すなわち、今後は斜面对策を全て公に任せることは困難であり住民の自主防災が重要となります。その時、費用的にも限界がある個人の防災努力に対して公が認知評価し、資金援助して最大限の効果をあげる防災対策が重要となります。個人が自己資金を投入してでも行うであろう防災対策のひとつとしては、豪雨時の斜面崩壊から個人の命を守るための警戒態勢と避

難を確実にできる安価なシステムが考えられます。具体的には、斜面崩壊の前兆を変位速度から判断する警報避難システムが現実的であり、個人レベルの出費も考えると一基3万円以下での提供が望まれます。これらの機器開発目標に対して、様々な条件下で崩壊に至る変位速度等の実験結果や開発機器の有効性、低廉化、無線等のシステム化、管理基準値等の研究成果を説明されました。また、本技術は公的機関からの雨量情報等と組み合わせることにより逃げ遅れ等がない合理的な運用が可能になること、更には海外での活用も視野に入れるべきであり、防災支援だけにと留まらず我が国の防災技術が輸出産業にもなり成りえることも指摘されました。

- (2) 安田進先生の講演は近年話題となっている造成盛土宅地の地震時の安定性について、多くの被災実態事例からその原因と調査方法、対策方法、今後の課題等を説明されました。十勝沖地震、宮城県沖地震、釧路沖地震等の事例からは、盛り土や基礎地盤付近がN値10以下で、かつ地下水位が高いこと等が共通要因であること、空中写真等を利用したスクリーニング、および現地において地形、地盤、盛土条件、被災状況を検討することにより、ある程度危険な盛土が絞り込めることを説明されました。また具体的な地盤調査法、特に地下水位の調査留意点、土質試験値の適用や設計に用いる強度等についても言及されました。特に地震時の過剰間隙水圧の扱いについては、安定計算上の加速度との併用についての問題点の指摘や、液状化時の盛土全体の変形性の問題等も指摘されました。今後の課題としては、盛土材料や地下水位分布の合理的な把握方法、地震時のような繰り返し載荷時の動的なせん断強度の算定、地震時過剰間隙水圧の求め方、不飽和部の地震時過剰間隙水圧の挙動等を挙げられています。都市域の盛土災害は人命にも大きく影響することが多く、危険な宅地盛土を抽出し、合理的な対策工を実施することが重要と最後に締めくくられました。



写真3 東畑先生の講演



写真4 安田先生の講演



写真5 意見交換会会場風景



写真6 井口副支部長による挨拶

2. 関東支部 平成 19 年度 現地検討会報告 「平成 19 年台風 9 号により群馬県甘楽町で発生した内久保地すべり」

本年 9 月に上陸した台風 9 号は、関東地方、特に神奈川県西部から群馬県内東部にかけて大きな土砂災害の爪あとを残しました。群馬県甘楽町秋畑内久保では、全長約 440m、幅約 130m、すべり面深度約 10m に達する大規模な地すべりが発生し、地すべり学会の協力も得て群馬県により調査対策が鋭意進められています。そのため、当初に秋期現地検討会として予定していた和美沢地すべり地の見学を中止し、平成 19 年 11 月 16 日（金）の本年度の現地検討会は急遽、内久保地すべりに決定したものです。検討会の目的としては、本格的な復旧が始まる前に現地を踏査し、応急および恒久対策のあり方を身をもって感じていただけること、会員諸氏の活発な議論を通じ、より良い対策工のあり方が検討できることにあります。現地での議論の続きは、群馬県富岡森林環境事務所に場所を移して、地すべり状況や今後の調査・復旧方法について意見交換を実施しました。

検討会当日は天気にも恵まれ、高崎駅からバス 2 台に総勢約 40 名が分乗し、甘楽町秋畑内久保地すべりに向かいました。当地すべり地の基盤は緑色片岩からなり、現地付近の河床付近においても認められています。地すべり滑落崖上頭部には路面段差があり、側方崖には非常に明瞭な擦痕が認められています。現地調査の後に昼食を頂き、群馬県富岡森林環境事務所において、地すべり機構、今後の調査、対策工のあり方等について活発な意見交換を実施しました。



写真 7 地すべり末端にてバスを降車



写真 8 群馬県から概要を説明



写真 9 滑落崖付近の状況



写真 10 頭部付近の路面段差



写真 11 側方崖に形成された地すべり擦痕



写真 12 中腹から滑落崖方向を望む



写真 13 滑落崖から下方を望む



写真 14 意見交換会

3. 平成 20 年度（社）日本地すべり学会関東支部総会・シンポジウム

関東支部では下記のとおり、総会及びシンポジウムを予定しております。中国から講師をお招きし、興味深いテーマで開催いたしますので奮ってご参加ください。

テ ー マ： 「日本と中国における大規模地すべりの実態と対策」

日 時： 平成 20 年 6 月 13 日（金） 13：00～17：00

場 所： 東京大学工学部武田先端知ホール（文京区弥生 2-11-16、武田先端知ビル 5F）
地下鉄南北線「東大前」駅下車 徒歩 8 分、千代田線「根津」駅下車 徒歩 5 分
http://www.u-tokyo.ac.jp/campusmap/cam01_04_16_j.html

プログラム： 13：00～14：00 （社）日本地すべり学会関東支部総会

14：05～14：10 開会、支部長挨拶

14：10～15：25 講演（1）「中国における最近の大規模地すべり災害に関する事例研究：地すべり機構と危機管理」（日本語通訳を予定）
成都理工大学教授 黄潤秋（Huang Runqiu）

15：25～15：40 休憩

15:40～16:55 講演(2)「大規模な地すべり・崩壊の発生場に関する2・3の私見」千葉大学名誉教授 古谷尊彦

17:00 閉会

17:30～19:30 意見交換会(東京大学山上会館)

コーディネーター: 鶴飼恵三(群馬大学)

シンポジウム参加費: 支部会員・一般 2000円、学生: 1000円(高校生以下無料)

意見交換会参加費: 5000円

申込先: 日本地すべり学会関東支部事務局

国土防災技術株式会社 東京支店内

TEL:048-833-0427 FAX:048-833-0429(担当 齋藤(築)、村田)

4. 第47回研究発表会及び現地見学会の開催について

平成20年度(社)日本地すべり学会第47回研究発表会及び現地見学会は、神奈川県において開催予定です。開催地は風光明媚な箱根の玄関口、箱根湯本駅近くの「湯本富士屋ホテル」をメイン会場とします。新幹線であれば東京から小田原経由で約50分、新宿からも小田急ロマンスカーで直通約90分と交通至便のところですので、皆様奮ってご参加くださいますようご案内申し上げます。

また、関東支部においては第47回研究発表会実行委員会、同幹事会、同作業部会、同事務局を設置いたしました。支部会員の皆様のご協力もよろしくお願い申し上げます。

(1) 開催日程 平成20年8月26日(火)～8月29日(金)

8月26日(火)	14:00～16:00	県民講演会
8月27日(水)	9:00～10:00	受付
	10:00～10:40	開会式、表彰式
	10:40～12:00	特別講演
	13:00～17:00	研究発表会
	18:00～20:00	意見交換会
8月28日(木)	9:00～17:00	研究発表会
	17:00～17:15	閉会式
8月29日(金)	8:00～17:00	現地見学会

(2) 会場

メイン会場: 受付, 開会式, 表彰式, 特別講演, 研究発表会, 意見交換会

「湯本富士屋ホテル」

〒250-0392 神奈川県足柄下郡箱根町湯本 256-1

TEL 0460-85-6111(代表) FAX 0460-85-6142

ホームページ <http://www.yumotofujiya.jp/>

サブ会場：県民講演会

神奈川県立生命の星・地球博物館（箱根湯本駅の隣、入生田駅降りてすぐ）

〒250-0031 神奈川県小田原市入生田 499

TEL 0465-21-1515 FAX 0465-23-8846

ホームページ <http://nh.kanagawa-museum.jp/>

◇県民講演会は神奈川県立生命の星・地球博物館との共催で行ないます。

◇講演内容は親子で興味を持てる箱根火山、土砂災害のお話を検討しています。

(3) 参加費：研究発表会，意見交換会，現地見学会

	県民講演会	研究発表会	意見交換会	現地見学会
一般会員 (事前申込)	無料	7,000 円	6,000 円	7,000 円
一般会員 (当日申込)	無料	8,000 円	6,000 円	7,000 円
学生会員	無料	2,000 円	3,000 円	6,000 円
非会員	無料	9,000 円	7,000 円	8,000 円

注) 参加費は原則全額前納とし、返却いたしません。現地見学会の参加費には昼食代が含まれています。

一般会員の研究発表会参加費は、事前申込と当日申込で異なりますので注意してください。

(4) 現地見学会

◎ Aコース 箱根一周コース

小田原駅（東口）（8:30 出発）→湯本富士屋ホテル前（箱根湯本駅より徒歩 5 分）（9:00 出発）→蛇骨川治山事業現場視察（温泉地すべり性崩壊）→須沢火山砂防事業現場視察→箱根ロープウェイ早雲山駅→（空中から大涌沢地すべり視察）→箱根ロープウェイ大涌谷駅→大涌沢地すべり現場視察→県立恩賜箱根公園・箱根関所跡視察→生命の星・地球博物館視察→小田原駅（16:00）

◎ Bコース 箱根・丹沢コース

小田原駅（東口）（8:30 出発）→湯本富士屋ホテル前（箱根湯本駅より徒歩 5 分）（9:00 出発）→須沢火山砂防事業現場視察→箱根ロープウェイ早雲山駅→（空中から大涌沢地すべり現場視察）→箱根ロープウェイ大涌谷駅→大涌沢地すべり事業現場視察→県立秦野戸川公園視察（戸川えん堤と砂防環境整備現場視察）→小田急秦野駅（15:00）→小田原駅（16:00）

(5) 参加申し込み方法

① 研究発表会・意見交換会・現地見学会

参加及び宿泊の申し込み方法の詳細は、学会誌およびホームページをご参照下さい。

② 県民講演会

申込期日及び申し込み方法は、学会誌5月号に詳細を掲載します。

③ 講演要旨原稿投稿の方法、新技術展示、広告

講演要旨投稿の方法、新技術展示および広告掲載の申し込みは、学会誌およびホームページをご参照下さい。

(6) 第47回研究発表会及び現地見学会実行委員会 実行委員長：中村 三郎

「平成20年度(社)地すべり学会第47回研究発表会および現地見学会」に関するお問い合わせは、次の実行委員会事務局までお願いいたします。

■第47回研究発表会及び現地見学会実行委員会事務局■

〒330-0074 埼玉県さいたま市浦和区北浦和 2-12-11

国土防災技術株式会社 東京支店内

TEL 048-833-0427 FAX048-833-0429

e-mail : landslide47th@jce.co.jp (事務局用)

担当：斎藤 (築)、村田

発行者：社団法人 日本地すべり学会関東支部

376-8515 群馬県桐生市天神町 1-5-1 群馬大学工学部建設工学科内

Tel : 0277-30-1624 (Fax 共有)

関東支部 Web ページ : <http://japan.landslide-soc.org/branch/kantou/>